

福島の親子 第6弾

町田の森あそびツアー

～ほのぼの ほっこりあかね色 たのしさ豊作の秋キャンプ!～



2015年11月21日(土)～23日(月) 町田市・大地沢青少年センター

★福島からの参加者 大人21人 子ども35人 計56人

★ご協力いただいたボランティア のべ54人

★かかった費用 約60万円

*食材費の一部は、公益社団法人町田法人会からの寄付をいただいています。



次回の「福島の親子・町田の森あそびツアー」のご案内
2016年4月29日(金)～5月1日(日)

みなさんのご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

ボランティアのみなさんの声

❁ はちみつ會の調理のボランティアに参加させていただきました。参加メンバーの方々も手際よく、スムーズに楽しく調理が出来、保養キャンプ参加者さんからの「ご馳走様〜」の言葉と笑顔にも癒されます。しかし反対に2011年3月11日から福島の事件はまだ終わってないと実感させられました。

❁ 以前、鎌仲ひとみ監督のドキュメンタリー映画「内部被ばくを生き抜く」を拝見させていただいてから、「はちみつ會」のような保養キャンプが重要だと確信しました。もちろん、親御さんの保養も大切です。このようなキャンプが増える事を願っています。チャンスがあれば再びボランティアに参加したいと思います。(調理・男性)

❁ 子ども達の遊びまで放射能の心配をしなくてはならないことは知らなかった。今後の生活等詳しく知って、自分の出来る事を見つけたい！(搬入、搬出・男性)

*今回は、福島からツアー希望者が定員を大幅に超えていたため、大型バスで一緒にいらっしゃる参加者以外に、個人でバスや電車を乗り継いで参加者も、数組、受け付けました。3組の親子の、東京に着いてから町田に辿り着くまでのお手伝いをしてくださったボランティアの方からの感想です。

❁ 11月、保養ツアーにボランティア参加をしました。自主的に上京し、参加された3組の親子をお迎えに行くのが最初の仕事でした。送迎バスに乗りきれずキャンセル待ちをしていましたが、どうしても参加したいということで、高速バスを利用しての参加でした。保養の希望をされながら、人数の都合で受けきれずにいた方々に、何とか応えられないかということでの対応だと思います。保養の要望が多いこと、そして、まだまだ応えきれていないのだということを実感しました。

❁ 朝早く福島・郡山を発ち、昼過ぎに新宿・東京に着いた皆さんを、「はちみつ會」と書いた紙を持ってお迎え。プラカードを持ってたっているのを見つけ、ニコニコしながら挨拶されると、初めてお目にかかるという感じもなくうれしくなってきました。まだ2時間近



い行程が待っているのですが、疲れた様子も見せず、東京の電車を楽しんでいる子どもたちでした。

❁ 夕方、大地沢に着くと、すでに到着していたバス組にすぐ溶け込み、元気に遊んでいました。こんなに苦労しながらも、安心して遊べる遊び場を求めているお母さん達の思いに応えることの大切さを実感し、また、こんなに苦労しなければならない現実を考えてしまいました。

❁ 今回もう一つ印象的だったのは、2日目の夜に大地沢にいらしたさがみ生協病院の牛山 Dr.のお話を一緒に伺うことができたことでした。牛山 Dr.は震災後福島へ通い、検診、相談を行い、お母さんの不安の声に耳を傾けるとともに、ベラルーシなどを訪れ、被ばくの実態を学んでこられたそうです。甲状腺被ばく調査等の報告と福島の子どもの現状、また今後の変化を見守っていくための資料づくりとして「乳歯を保存するプロジェクト」などのお話がありました。

❁ 汚染、被ばくについて語ることはばかられると感じ、普段口にすることができず、自身や子どもたちの健康について不安を感じているお母さん方に優しく、真摯に寄り添う姿に、医師としての信念を持って行動する牛山 Dr.の思いを強く感じました。笑顔で遊ぶ子ども達の姿を見ながら、まだまだ汚染の不安を感じながら育つ福島の子どもたちに、これからも健康でいてほしいと願いながら、これからどういう形がかかわっていけるのか考えさせられた3日間でした。(男性・福島参加者お迎え)

* もう一つの新しい試みとして、ジュニアボランティアが誕生しました！メンバーは、中学生1年生になった福島参加者のNくんと、町田からのボランティアK君のお二人です。二人は、森遊びツアーで出会い、今回二人は、ジュニアボランティアとして「子ども参加者アンケート」「宝探しゲーム」の企画・準備と実行を担いました。そのお二人からの感想です。

◆僕はジュニアボランティアをはじめてやってみて、ちょっと失敗してしまったことや色々ありましたが、良いこともありました。良かったと思うのは、僕たちの企画に家族が積極的に参加してくれたことです。今度はもっとみんなを楽しませたりしたいと思いますので、よろしくをお願いします。スタッフのちからにもなりたいです。(ナルヤン)

◆初めてジュニアボランティアをやってみて、ダメなことやいいこともありました。やってみてよかったと思うのは、家族が一致団結して動いてもらえたことで、来年度はもっと頑張っていこうと思うのでよろしくをお願いします。(けーけー)



福島の参加者のみなさんの声

◆震災直後の気持ちは薄れていくのは確かですが、今なお放射能被害を恐れて暮らしています。こどもの外遊びの制限、食べ物の産地に注意するなど、震災以前の生活に戻ることはできません。毎日、制限やストレスの中で生活している人がいるということ、頭の片隅に置いて頂けると幸いです。

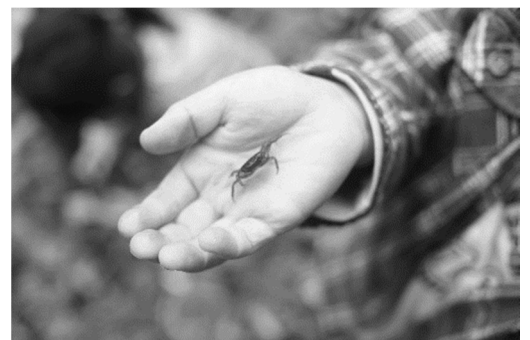
◆今は保養を利用し、年間で10日以上福島から離れる事を心掛け、放射能とうまくつきあうしかないと考えています。5年目を迎え、本当に子どもに病気が発

症しないのか、今までの行動が本当に良かったのかと一つの区切りになるのではと考えています。

◆線量計を持ち、高い所に行かない、通学路は線量が高いので送り迎えをする、野菜は地物がどうしても不安で食べられない、心配はするけど、福島で生活していくためには一つずつ、妥協してしまっています。

◆もう、あの日から5年がたちます。だんだんと日々の生活に戻りつつありますが、子ども達にはまだまだ外遊びの制限はたくさんあります。除染したといえ、不安はつるばかりで、落ち葉がたまる場所や水たまりが出来る所、自分の家の庭でものびのびと遊ぶことが出来ません。町田に来ると、子供たちの笑顔がきらきらとしていて、親として見ていると涙が出てきます。もとは戻らないことはわかっているのですが、県外にどれだけ出て遊べるか、ほんとうに悩みは尽きません。この現状を、県外の人にも、今も戦っている事、知って頂けると嬉しいです。でも、そんな生活でもたくさんの喜びはあります。

◆スタッフ、ボランティアの方との出会いがとてもよかったです。保養の重要性を自分が再確認できたから…。子どもが元気に外に出て遊び、靴がドロドロになりましたが、それを見て親子共に笑うことが出来ました。ただ、福島を離れる事だけではなく、きちんと子どもをみていこうと思いました。おいしいお食事、ママ向けのプログラム、ありがとうございました！子どもの名前の木製品、とっても素晴らしく大切にします。テルミーで身体が癒され、宝探しに本気になったこと、忘れません！



はちみつ會より、みなさまへ

❖森あそびツアーも、この11月で6回目になりました。今回のツアーには、2つの新しい試みがありました。まず一つは、福島から「自力で町田まで来ていただけるなら、キャンセル待ちの方もツアーに参加してもらおう」とこととしたのです。いつも参加申し込みの電話を受けていると、「参加できますか?」「もう何十回も電話したけど、駄目だったんですね」「つながるまで心臓が震えた」と、電話の向こうの声に、こちらも張り詰めた気持ちになります。それだけに、今回キャンセル待ちのご家族の数が予想以上に多かったこともあり、なんとかしたい!という気持ちから考えました。

❖キャンセル待ちのご家族一人ひとりにお電話した結果、4家族がバス・電車や自家用車を乗り継いで来てくださいました。やんちゃなお子さんと東京に着いて、さらに東京の外れの町田までたどり着く…不安を感じるご家族と一緒に、どの交通手段を利用するかを話し合ったり、お迎えのボランティアを準備したり(会えなかったら、どうしよう!とか)、ちょっとドキドキしながら計画を進めました。

❖スムーズにいったホッとしましたが、大型バスを仕立てた時とはまた違った、福島-町田間の距離を感じました。私たちツアーを準備する側の大変さもあるのですが、ほんとに移動するって大変だなと。そして、毎回バスといえ、そうやって参加してこられるご家族の気持ちを考えると、なるべく多くの方が参加できるよう、今後もいろいろ工夫していきたいなと強く思いました。

❖もう一つ、今回は、ジュニアボランティアが誕生しました。参加者のお子さんは小学生以下を対象にして

いますが、1回目から参加してくれている男の子が中学生になったため、町田のボランティア中学生とコンビを組んで、ジュニアボランティアが出来ました。

❖ジュニアボランティアコンビは「宝探しゲーム」を企画して、商品や参加賞、隠す場所や当日の進行を含めて大活躍でした。さらにキャンプファイヤーのゲームのキャプテンになったり、他の子どもたちと一緒に朝食を作る力にもなっています。

❖二人の活躍を見て、来年、中学生になる子どもたちが、早くもジュニアボランティアになる!と手を挙げてくれています。とても嬉しく、また、有難いです。これも、積み重なってきた良さかなとも思います。一方、今回、初めて保養に参加して下さったご家族もいました。まだまだ、保養の機会が必要だと思えます。

❖私たちははちみつ會は、小さい団体ですが、多くの方々のお力を頂いて、なんとか今までやってまいりました。本当にどうもありがとうございます。今年も春と秋に2回、さらに、障がいをお持ちのお子さんの保養も計画しています。どうぞ、これからもご協力をよろしく願いいたします。



協力 (順不同・敬称略) 公益社団法人町田法人会 公益社団法人町田法人会相原支部 ハッピーストア 株式会社タウンツアーズ 生活クラブ運動グループ町田市地域協議会 パンの木 イトオテルミー・ハート療術所 学生団体ボランティアあおぞら きつねはらっぱ冒険遊び 福島こども支援・八王子 かあちゃんず 社会福祉法人共働学舎 ラリチェッタ りふりら ~La Ohana~ momyu-na サロンアンジェリカ サロンALAKAI 藤本典 恵泉女学園大学・山下詠子先生 トランジションタウンまちださがみ

その他、多くの皆様のご協力をいただきました。本当にありがとうございました。



福島の親子・町田の森あそびツアー 第6弾



ほのぼののほっこりあかね色

11月でも、川が呼んでる



走る走る...



トントントン...つくってます



たき火もしたよ!





2015年11月21日~23日 大地沢青少年センター

たのしさ豊作の秋キャンプ



落ち葉のなか



チャンバラ...かな?



ぐんぐん、ゆらゆら



大人はアロマテラピーや
テルミーのマッサージで
の〜んびりの手芸もしました。

